赤岡から文代峠へ

赤岡から文代峠までの見所を広報担当者が昔の旅姿で歩きました。

説明：広報編集委員長　野村土佐夫

❶槇山村（香美市物部町）の人々は滅多に海を見ることがなかった。塩との物々交換で赤岡へ来ると、必ず渚で波と戯れたという。村人が背負う塩かますは、40斤（24kg）入りで、牛馬の背に４かますほど乗せたと思われる。

❷横町で槇山村の婦人たちが、日用品を物色している。

❸横町と弁天通りの角にある「山城屋」の水切り瓦が美しい。干魚を竹籠に入れて郷へ行商に行く男と談笑する塩運び人。

❹赤岡浦の外れ。ここから香宗村である。香宗村は800年前に開かれた郷で、香宗我部氏発祥の地。400年後、長宗我部元親の弟・親泰（ちかやす）が香宗我部の養子となり、安芸国虎を滅ぼし四国平定の足がかりを築いた。

◆宗我神社 そがじんじゃ

赤岡から徒歩約0.7時間／約3.8km

10 ◆岩田の渡り場 いわたのわたりば

◀香宗村を抜けると、岩田の渡しがある。昔は川幅が広く、渡し舟で往来したとか。

1 ◆赤岡塩市跡 あかおかしおいちあと

◀与楽寺の山門前に塩市が立ち、塩との物々交換で商ったといわれる。槇山村から木炭、シイタケ、薪などが交換されたという。写真の店は現在「塩屋」という餅屋で当時の名残が屋号として残っている。

◆安岡家住宅 やすおかけじゅうたく

赤岡から徒歩約1.2時間／約6.0km

8 ◆宝鏡寺跡 ほうきょうじあと

▲香宗我部氏の菩提寺・宝鏡寺跡。寺の境内２反３畝、堂内180坪。現在は、小さな観音堂のみ。この観音堂の北側に香宗我部一族の墓石が並んでいる。香宗我部の子孫が鎌倉市へ遺骨を移し空墓ではあるが、歴代の香宗城主一族の名が刻まれている。

14 ◆山内規重蟄居屋敷跡 やまのうちのりしげちっきょやしきあと

▶六代藩主・豊隆（とよたか）から蟄居を命ぜられた山内規重の城山で、その嫡子・山内豊敷（とよのぶ）は山北が誕生地。後年、八代藩主となる。浅上神社や金水堂も爾来、山内家の加護を受け、棒術も盛んになった。

◆あぐりのさと

赤岡から徒歩約2.0時間／約9.9km

▲あぐりのさとのテラスでお食事。桜の木が近くにあってお花見シーズンが楽しみだ。このテラスは、地元のおんちゃんたちの隠れ家だとか。

あぐりのさと WC 🚻 P あ

19 ◆岩鍋の鞍かけ岩 いわなべのくらかけいわ

▶口西川へ上る途中に「鞍かけ岩」がある。ここで牛馬の荷を下ろし、ひと休みさせたという。すぐ横に山北川の源流が流れている。

◆君子方神社 くしかたじんじゃ

赤岡から徒歩約2.3時間／約11.8km

22 ◆君子方神社 くしかたじんじゃ

▲神社には当時、回り舞台があって地元住民は歌舞伎を楽しんでいたといわれる。また、塩の神様が祀られていた。

地元食材でおもてなし ゆっくり休んでいってや

あ ◆あぐりのさと

▲**あぐりの手作り弁当**

地元のおかあちゃんが作る手作り弁当。地元食材にこだわっています。注文は完全予約制とのこと。

◆問い合わせ

あぐりのさと☎54-2128

※予約は土・日のみ。
8:30～16:00までにご連絡ください。

◆君子方神社 くしかたじんじゃ

▲神社には当時、回り舞台があって地元住民は歌舞伎を楽しんでいたといわれる。また、塩の神様が祀られていた。

◆文代峠 ぶんしろとうげ

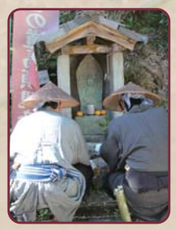
赤岡から徒歩3.6時間／約14.5km

28 ◆文代峠 ぶんしろとうげ

▲文代峠までの坂は、槇山村までの中で一番急峻（きゅうしゅん）である。これほど急峻であれば牛馬の道はこの道とは別に、現在の自動車道にほぼ近い屈曲の坂道があったのではないか。

登りに30分は掛かる難所に、若い２人の荒々しい吐息が聞こえてきそうだ。

26 ◆文代峠馬頭観音 ぶんしろとうげばとうかんのん



◀馬頭観音は本来、難除けの仏で盗賊や道中で罹病しないよう祈願の仏である。年とともに牛馬の往来が盛んになると、牛馬の守護仏として各峠に置かれるようになった。

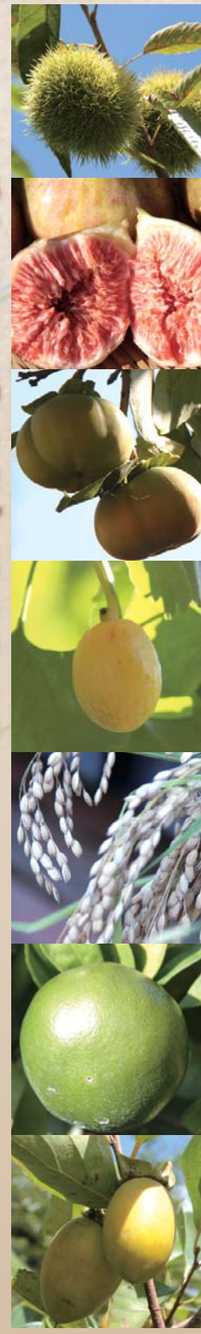
27 ◆文代峠店屋跡 ぶんしろとうげてんやあと

▲ここにあった店屋は、赤岡へ移転し和菓子の老舗となった。今年、赤岡に店が復活している。

い ◆意契 いのちぎり

▲中西川と山川への三叉峠を意契といって、嫁ぐ娘や、町へ出稼ぎに出る者たちと、ここで別れたのであろう。また「そとば通り」ともいう。どちらにせよ、家族との悲しい別れの場所であったことに間違いはない。それにしても迫真の演技だ。

「塩の道」周辺でみつけた秋の恵み



上から
イガグリ
イチジク
カキ
ギンナン
コメ
ミカン
シブガキ